

日本労働年鑑 第27集 1955年版

The Labour Year Book of Japan 1955

第二部 労働運動

第三編 農民運動

第四章 米麦等の供出・価格をめぐる運動

第三節 甘藷価格闘争

価格闘争の態勢整備

甘藷の生産は千葉、茨城、九州など地域的に集中しており、また米麦価問題に比べ全国的問題とはならなかったが、これらの地域においては米麦以上に重要な商品作物であり、また貧農作物でもあるため、米価問題が中富農層の最大の関心となるに反し、甘藷価格問題は貧農をふくめた広汎な農民の運動目標となりうる。つぎに五三年の甘藷価格闘争として組織的に行われた茨城常東農民総協の運動を見よう。

甘藷価格は五〇年一俵四五〇円、五一年四〇〇円、五二年二五〇円と低落の一途をたどり、本年は二〇〇円を下廻ると予想されていた。政府は甘藷価格暴落をふせぐため五二年五月より農産物買上げ要綱により澱粉買上げを行ってきたが、この第一、第二回買上げの頃は農家の甘藷手持ちは少なく、結局澱粉工場や農協の救済に終わってしまった。地方事務所では共同出荷、貯蔵法の改善等を指導し、農協は自ら澱粉工場を経営して高価買入れを図る等の対策を唱えたが、価格低落による農家の収入低下を阻止する根本的対策とはなりえない。

五三年七月一日常東農民総協第二回拡大執行委員会は、甘藷澱粉の経済的事情と総合対策を検討し、甘藷価格引上運動の展開と次のような闘争方針を決定した。

(甘藷価格闘争方針)

(前略)従来価格の闘争では米価問題においても闘われた幾多の経験があるが、いずれも成功したとは見られなかった。それは農民大衆が直接に闘争に立上っていないということのためである。それらの多くは大会カンパや団体幹部の請負運動に終わっていた。価格闘争で大衆自身が立上るということは至難なものとされていた。もし我々がそのこの突破に成功するならば運動における新分野を開き、常東農民運動の新生面が展開されることになる。このことは全国の運動にとって重大な新しい材料の提供である。次にこの闘争の直接の目標とするものは次のようなものである。

- 1、価格における団体交渉権の確立。
- 2、労働者の闘争の如く、売止め、不売などの農民ストライキ。

そのために全常東地域の農民大衆を統一しその指導部すなわち実行委員会を作って、農民を把握し、その直接行動を指導する力を持つことである。闘争の配置は、当面澱粉工場に対して団体交渉権と、買叩き反対、価格釣り上げを要求し、更に又、農民の

利益を守るための買入れを政府に要求することである。

実際の運動の順序は、農協、開拓農協に対し、甘藷対策懇談会を提唱し、ここから生れる共同委員会主催で、全常東甘藷生産農民大会を開催する。そして、この大会から実行委員会を大衆的に選出する。これが常東農民の統一的指導部となるのである。町村では夫々に可能な所では村民大会、或は農協と常東町村組織代表との合同会議により、町村実行委員会を作る。そしてそれが部落実行組合(出荷単位組合)を把握する。

統一指導部は澱粉工業組合並びにアルコール工場に団体交渉を行い、又更に、県、政府に対して要求運動を開始する。この交渉及び要求の結果は逐一、町村実行委を通じ全部落実行組合に迅速にニュース其の他の方法で通知される。

この活動は統一指導部が農民を把握する力を次々に強化するし農民の統一行動の条件を作りなすものである。そうした中で運動を高め、発展させて行く。

昨年度澱粉工業組合は、八月に熱海で買叩きの協定を行い、その後出荷直前から出荷期には五日から一週間の割合で会合し、低価格を押し進めて来た。本年度も同じ動きに出ると見られるから機先を制して、これを混乱させ、粉碎しなければならない。

この闘争には当初、鉾田周辺の一〇カ村、否その事前に三カ村が完全に立上れば、運動は成功的に遂行されると見通せる。

最後に繰返すが、この闘争は常東第八回大会の決定方針を最も大きく現実に打出すという重要な意義を持っている。さらにこの闘争は、価格という資本主義のもっとも一般的な関係が、労賃と農産物価格に一方的に犠牲をおしつける方法によって支配されている状態にたいし、階級闘争による攻撃を加えることである。資本主義のもっとも一般的な、いわばその心髄にせまる階級闘争として、農業恐慌の激化しつつある今日、この闘争のもつ政治的意義はきわめて重要である。

七月一三日には運動の第一歩として鉾田町に甘藷価格対策懇談会がひらかれ、県開拓農協、農協連、各町村農協組合長、農総協代表等六〇名が参集、とくに農協の価格闘争に対する協力が要請され原則として意見の一致を見た。かくて総協、農協、開拓農協三者間に連絡委員がおかれ、各団体代表よりなる対策委員会が設置されることになった。

七月一八日より二〇日までの間に鹿島、行方、東茨城三郡の町村農協組合長会議がひらかれ、三郡の農協は価格運動に参加することを正式に確認し、各郡八名ずつの対策委員が選出された。二三日には総協の対策委員が選ばれ、八月五日には鉾田町で第一回対策委員会の会合が開かれ、協議の結果、三郡甘藷対策協議会が結成された。その後、各町村において部落共同出荷組合が次々につくられ、価格闘争体制が整備されて行った。しかし同時にこの間、一部農民とくに澱粉業者と特殊のつながりを持つ農民、甘藷仲買人、一部農協役職員のなかには、価格運動妨害の動きが見られた。

「ここで特に問題なのは一部とはいえ、農協役職員の態度である。その中には『甘藷価格は二〇〇円を割ってもかまわない』などと放言する極端なS村農協組合長の例もあるが、これは問題外として、農協が依然として、農協の販売手数料の増加だけを考慮して、価格引上げという農民の利益擁護を忘れていた態度である。なぜならそうした態度は販売手数料をふやすためには業者の手代とも化しかねないからである。そこに価格運動に対する不熱心さがあらわれている。」(「甘藷価格問題ニュース」八・二九第三号)

九月一六日には東部三郡甘藷対策協議会は買入れ側たる銚田澱粉工業協組と価格に関する折衝に入った。この後静岡東洋醸造等の業者と次々に折衝したが、農民側は、団交に応じない業者、信義に反する行為のあった業者には売止め、その他の対抗手段を講ずると通告し、強硬な態度をとった。

農民大会の開催

九月二五日銚田町で三郡農民大会が約一〇〇〇名の農民代表参加のもとに開催された。

(大会宣言)

三郡下の全甘藷生産農民の総意を結集して本日ここに生産農民大会が開かれた。本地方の主要農産物である甘藷の価格は年をおって暴落し、更に本年相場は昨年 of 最低価格に比してもなお一俵一〇〇円の大差を示している。

かかる状態を放任しておくならば農民経済の困窮は火をみるより明らかである。われわれ甘藷生産農民は部落、町村、全郡にわたり、すべての関係団体の一致協力のもとに甘藷価格運動を展開し強固な団結をかためつつ本日の大会をもった。われわれは本大会の名において、業者の不当なる買叩きをおさえ、団体交渉による農民の価格を要求し、価格保証と関係諸機関の完全な対策樹立を要請する。出荷期を目前にして全生産農民の一層の奮起と団結を要望する。右宣言する。茨城県東部三郡甘藷生産農民大会

大会実行委員は当日澱粉工業協同組合理事長と団交し、一〇月初めに工場操業を開始し、要求価格を受諾するよう要請した。同月三〇日の第一回正式団交で次の諸項目につき交渉は妥結した。

- (一) 業者側の操業予定日一〇月一五日を繰上げ、三日より準備出来次第開始する。
- (二) 甘藷価格は沖繩一俵二八〇円、農林一号三〇八円、俵代、検査料、運賃一切業者負担(農民要求価格は沖繩三六〇円)
- (三) 業者は原則として三郡協議会を通じて荷受けし、協議会は出荷計画の責任をもつ。
(「甘藷価格ニュース」一〇・二第六号による)

右の価格決定は最大の甘藷需要者たる澱粉工業組合との取り決めであるためその影響は大きく、この後各業者との交渉は右の線でつづけられた。一〇月三〇日の第四回団交における価格決定では、業者側から「生澱粉が値下りしたので出血操業をしている、今回は二五〇円にしてほしい」との申入れがあったが、協議会側は譲らず、ついに売止めストに訴える外ないと交渉決裂寸前まで来たが農民側の強硬な態度で業者側はついに二六〇円に折れ、交渉は妥結した。第五回団交では二七〇円にきまった。「甘藷価格ニュース」第九号によれば、この価格闘争の意義はつぎのように評価されている。

今回三郡にわたる価格運動において、従来政府、業者によって一方的に決定されていた甘藷価格は、ここに農民自らの発言権によって決定された。すでに五回を重ねた団体交渉、また数回となき工場個別交渉の経過及び結果を見る時、このことは誰の目にも明らかとなった。この価格運動において、広汎な甘藷生産農民が部落、村、郡と強固な運動体制のもとに団結し、この圧力により常に業者側を譲歩せしめ、画期的成功をとげた事実は全国にその例を見ない。常東農民組織協議会第八回大会において明確に示された価格問題における農民の団結と統一をはかるという方針はここに見事に実践され結実したのである。この成功は『甘藷価格』にのみ限られるものではない。すべての農産物価格の維持と釣上げ肥料の値下

げなど、新らしい分野における運動の展開、農民の要求価格実現は十分に可能となった。
(下略)

日本労働年鑑 第27集 1955年版

発行 1954年11月5日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 時事通信社

2001年10月16日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1955年版(第27集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
